

I WANT TO
RETIRE
FROM
BEING A
HERO. 4

ヒーロー
辞めたいん
ですけど。

4

前回までのあらすじ

会社員である五十嶋は誰にも言えない秘密があった。
それは「悪の組織ダークレイダー」を倒すため
選ばれた正義のヒーロー「レッドバスター」であることだった。

だが、五十嶋はヒーローを続ける気が全くしない。
それは、悪の組織のボスである「ダークレイダー」に
あろうことが惚れられてしまったからだ。
ついには、同じ会社の部下で

ダークレイダーの仲間である吾桑と一緒に
無理矢理おかされてしまう。

そして、五十嶋に正体不明の新たな敵が現れる。

自らを「欲望の権化」と称し
五十嶋を奪うために存在すると話す敵。
捕らえられた五十嶋は、精気を絞り出され、瀕死の状態に陥るが、
間一髪で助けに来たダークレイダーと吾桑の看護により、
一命を取り留めた。

しかし、五十嶋はその謎の敵に不思議な感覚を覚えていた。
初めてのはずなのにどこかで会っている気がする…。

そんな中、いつもの様にダークレイダーから
「人質を捕らえたから返してほしくば俺の元へ来い」という
五十嶋に会いたがための口実の連絡が入る。

しぶしぶレッドバスターに変身し、現場へ行くが
当然人質などおらず、帰ろうとする五十嶋。

ダークレイダーの執のような引き留めに
何故そんなに自分のことが好きなのか、問うと、
初めて戦った時に、五十嶋から言われた「ある言葉」が
きっかけたと話す。

すっかり忘れてしまっている五十嶋はその言葉を聞き出そうと
しつこく追った結果

ダークレイダーに半ば強引に犯されてしまう。
ダークレイダーの心を動かしたその言葉とは…。

「二度とこういうことはするな」とダークレイダーに説教している中、

突然五十嶋の司令官から通信が入る。
誰かに襲われている様子の司令官は
「逃げろ」とだけ言葉を残し、通信が切れてしまう。
一体司令官を襲ったのは何者なのか。

そして、時を同じくして吾桑の身にも
ある変化が起きていた…。

いそじま 主人公:五十嶋

普段は会社に勤める部長だが
裏では
悪の組織「ダークレイダー」と戦う
正義のヒーロー「レッドバスター」
敵であるダークレイダーに
惚れられてしまったがために
ヒーローを辞めたがっている。





一体…
何があったんだ…

…応答しない…

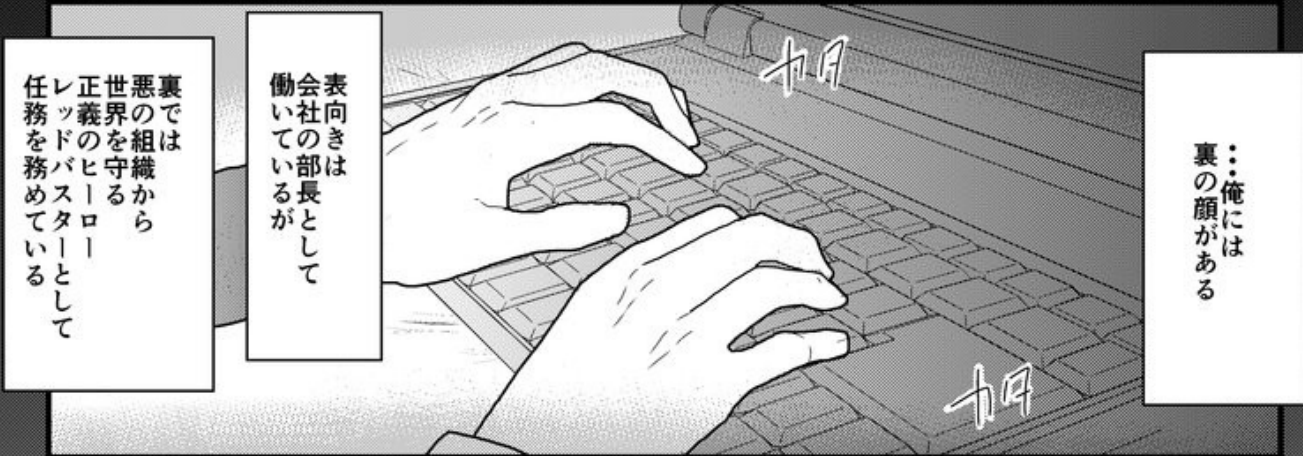


吾桑
今日も休みか

珍しいよな
あいつがな
二日も会社
休むなんて…



…



…俺には
裏の顔がある

表向きは
会社の部長として
働いているが

裏では
悪の組織から
世界を守る
正義のヒーロー
レッドバスターとして
任務を務めている



その任務とは

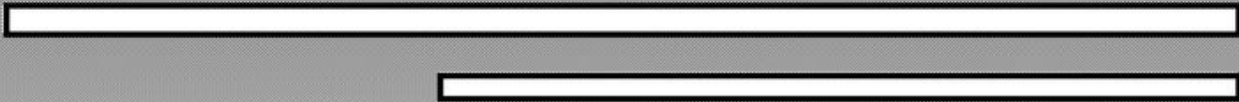
悪の組織
ダークレイダーの
退治

…だが

新たな敵が
俺の目の前に
現れている



…それは…



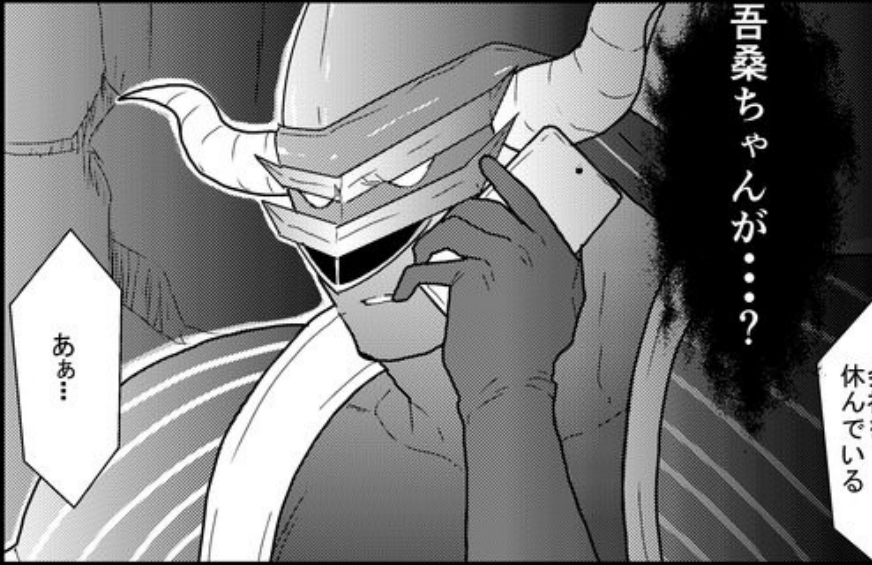
そっちな
様子はどう？
レちゃん…

…未だに
司令官とは
連絡が取れない

本部にも
行ってみたが
誰もいなかった

…今日で二日目
なる

そう…



吾桑ちゃんが……？

ああ……



それと……
司令官から
応答が途絶えた日から……

吾桑も
会社を
休んでいる



そっちにも
吾桑の姿は
ねえんだよな？
ダーク
レイダー！

うん……
書きかけの
組織の書類を
置いたまま
それっきり……

……吾桑はお前たちの
仲間だ

会社だけじゃなく
そっちにも
顔を出してねえと
なると……



ただ……？



……まだ
分からねえ……

……ただ……



ねえ……
どういう
事だと思っ……？
レツちゃん……

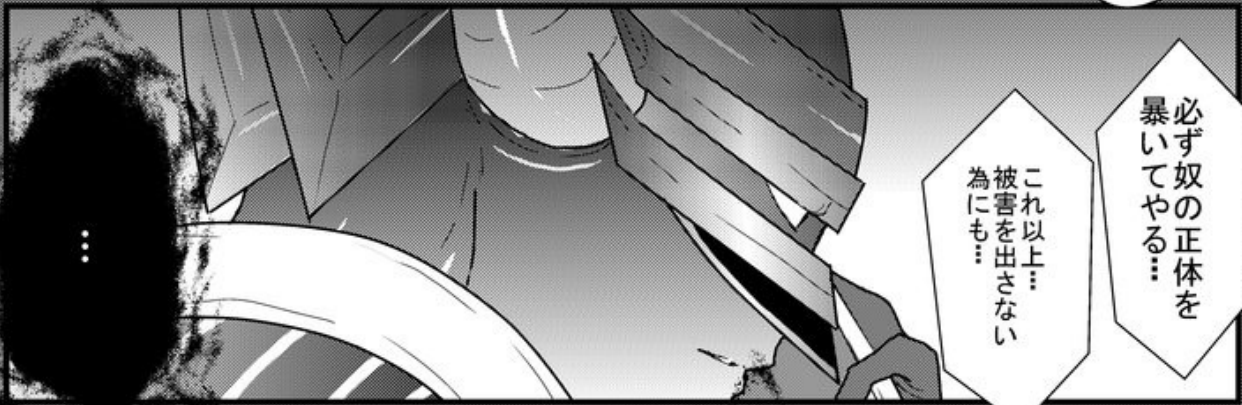
……



あの敵が...

正体不明の
あの敵が
絡んでるのは
確かだ

少なくとも
司令官は...
俺と同じように
襲われて...



必ず奴の正体を
暴いてやる...

これ以上...
被害を出さない
為に...



だって
俺と戦ってる時は
めっちゃくちや嫌が
つてたじゃん
ヒーロー辞めてや
るとか
言っちゃって

それはしょうがない
でしょ...?
レッチちゃんの事
愛して愛して
愛しまくっちゃっ
つてんだもん

それは...ッ
お前が毎回
真面目に戦わねえから...

やかましいわ
それが敵対して
る奴に
言う言葉か
気色悪い



...変わったね
レッチちゃん

...あ?
何が



何の為に
生まれてきたのかも
分からない……

自分が何と
戦ってるのかも
分からない……
そんな時……

レッちゃんの
あの言葉で……

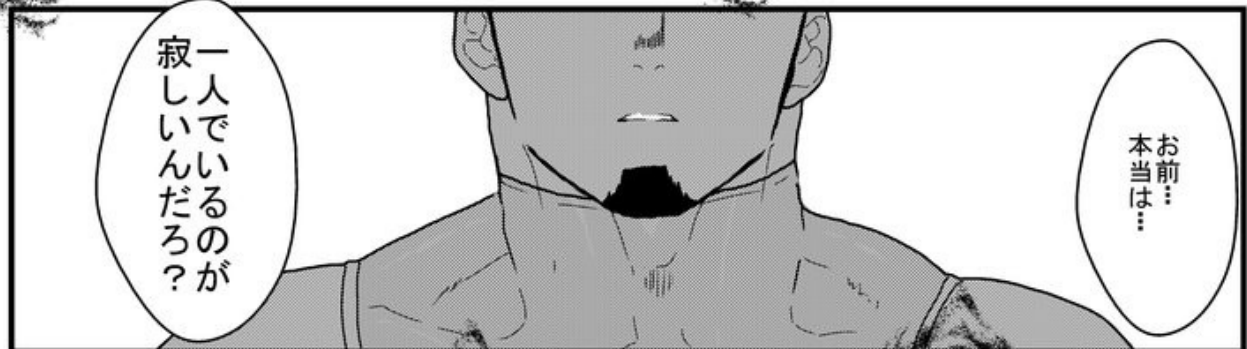
レッちゃんと
初めて戦った時……

俺はそれまで
ずっと一人で
いたんだよ



でも……
改めて惚れ直したよ
レッちゃんの事

ああ？



一人でいるのが
寂しいんだろ？

お前……
本当は……



……でも……
気を付けてね
レッちゃん

……？



とにかく……
俺達は一旦
休戦だね！

その謎の敵を
追い詰めるまで

……納得
いかねえけどな
本来敵であるお前と
協定結ぶとか……

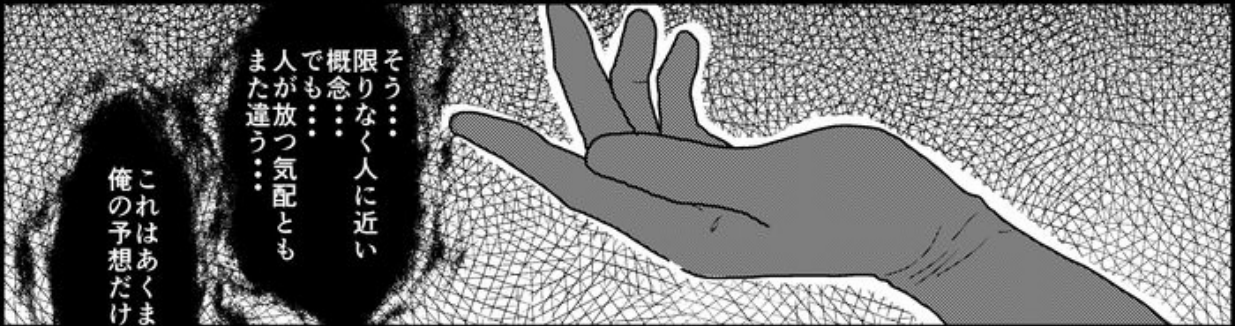


だから
何なんだよ
その言葉

俺はお前に何も……

別にいいの
レッちゃんは
忘れてたから

はあ？
お前
ふざけんなよ





貴様……ッ

早くしないと……
本当に廃人にな
ってしまおうぞ……



……盗み聞きか……

お前こそ
相当な暇人だな……

お前が時間をかけて
くれたおかげで……
お前の司令官を
じっくり弄ぶ事が
出来た……



今からいう所へ
お前一人で来い……

もし
一人で来なかった場合……
どうなるか……
お前なら既に
分かっているだろう……

……
ッ

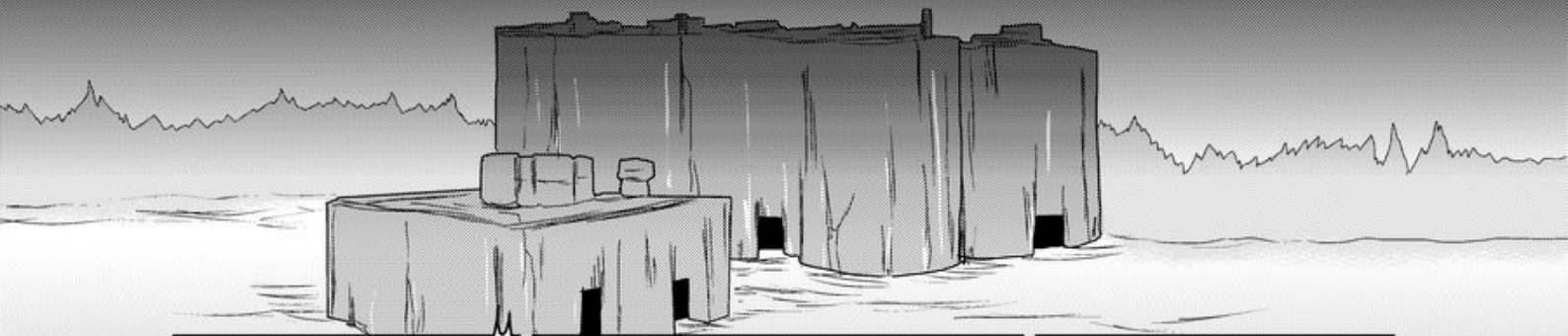
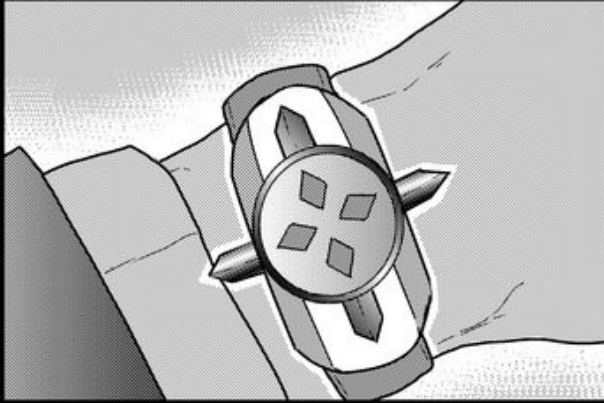


これじゃ
いつまで
経っても……

ヒーロー
辞められねえじゃ
ねえか……ッ



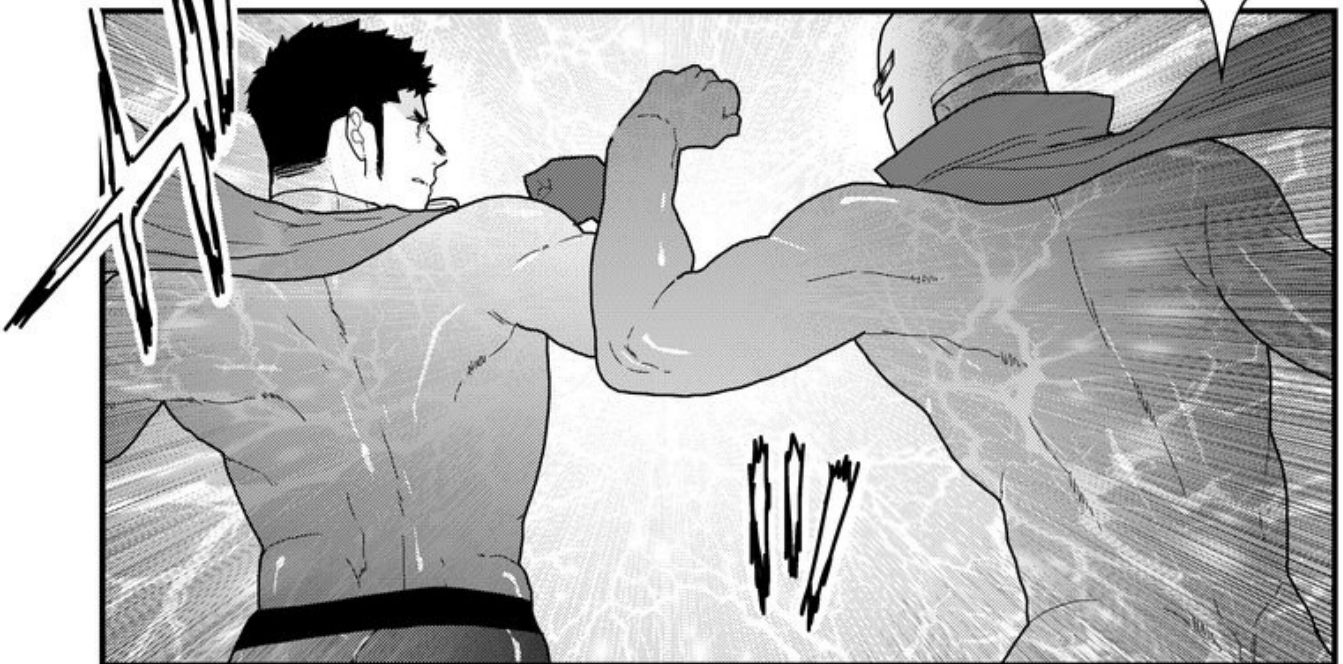
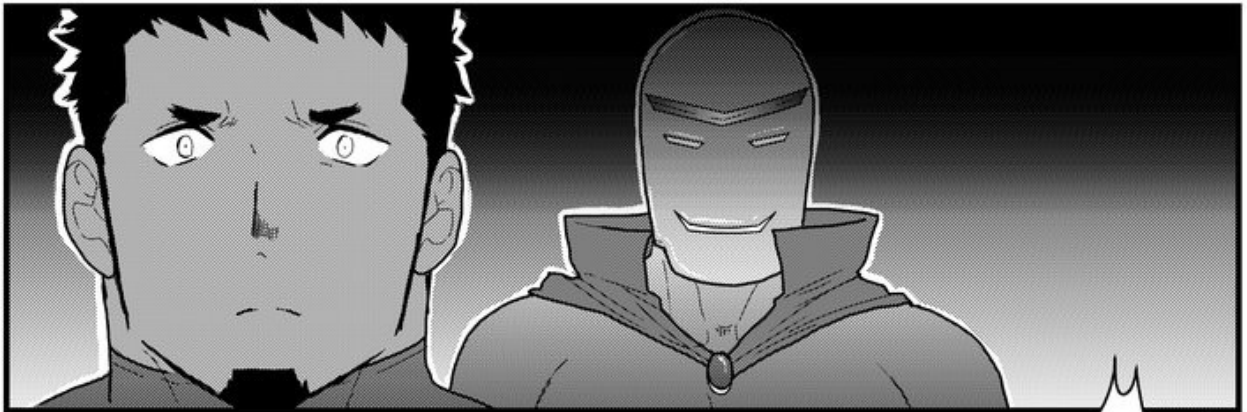
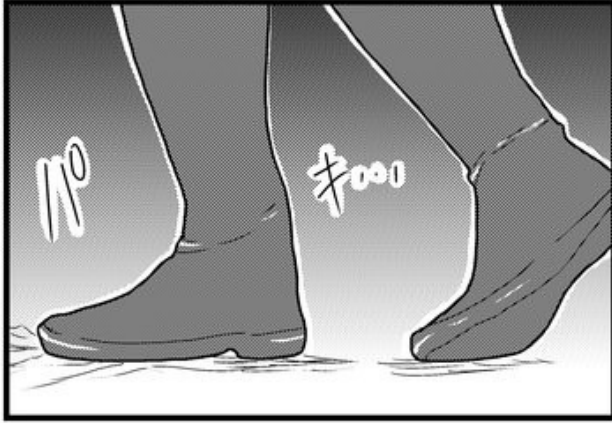
……

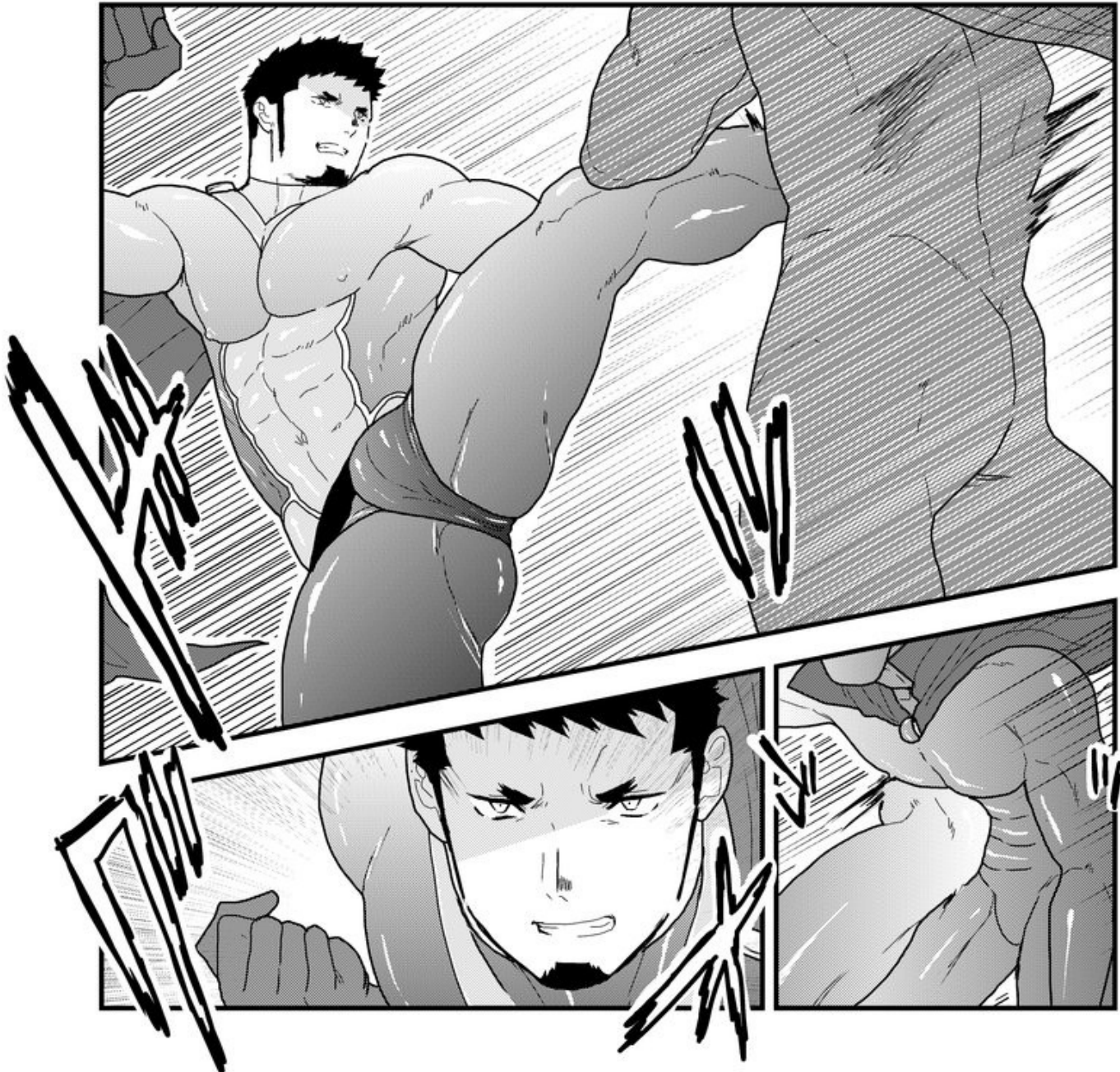


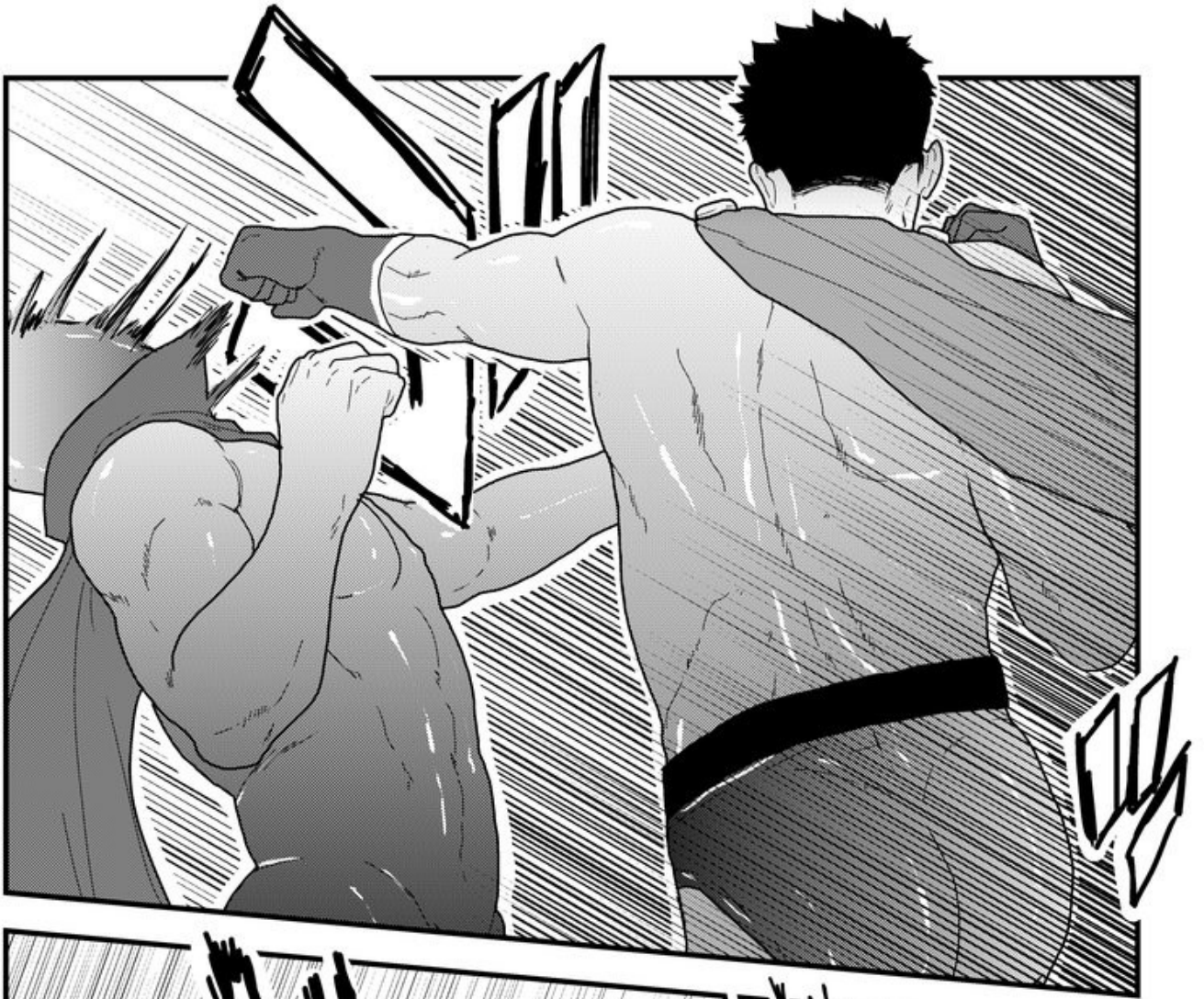
何処にいる!?

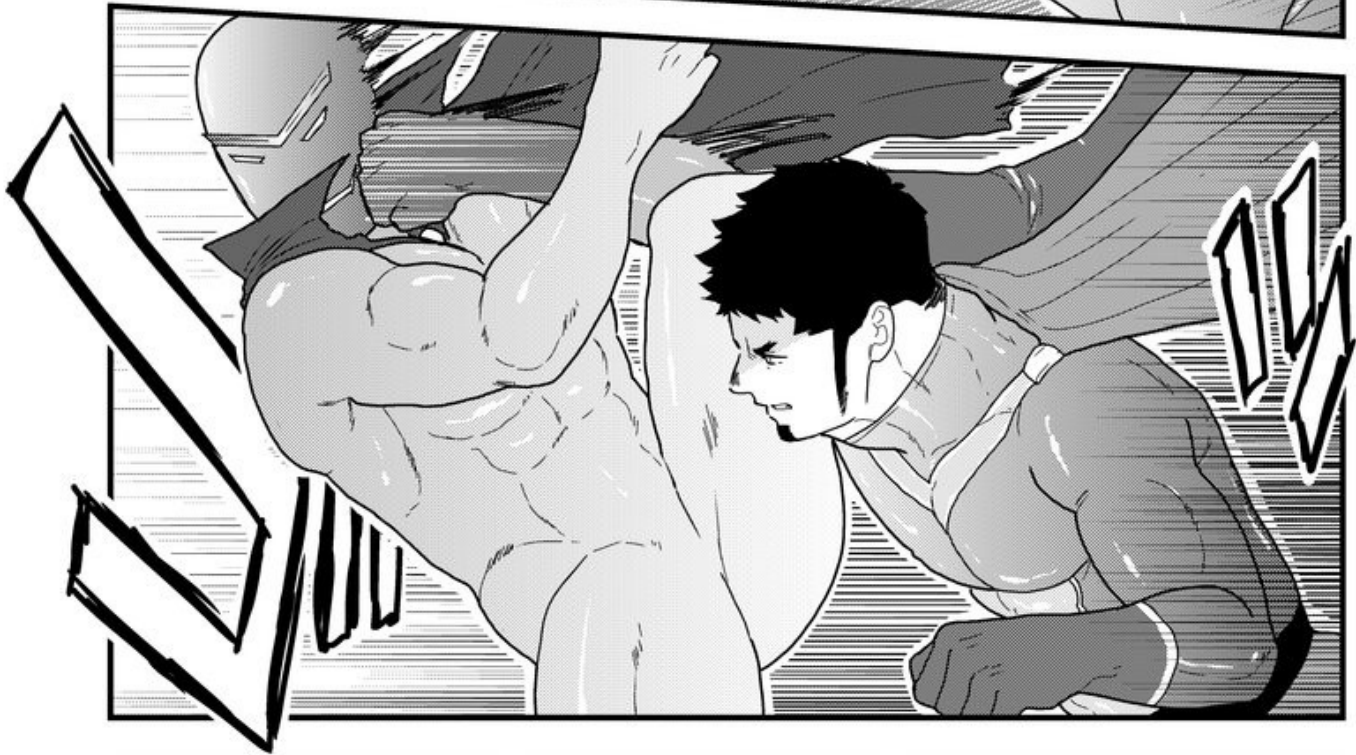
…来たぞ…ッ

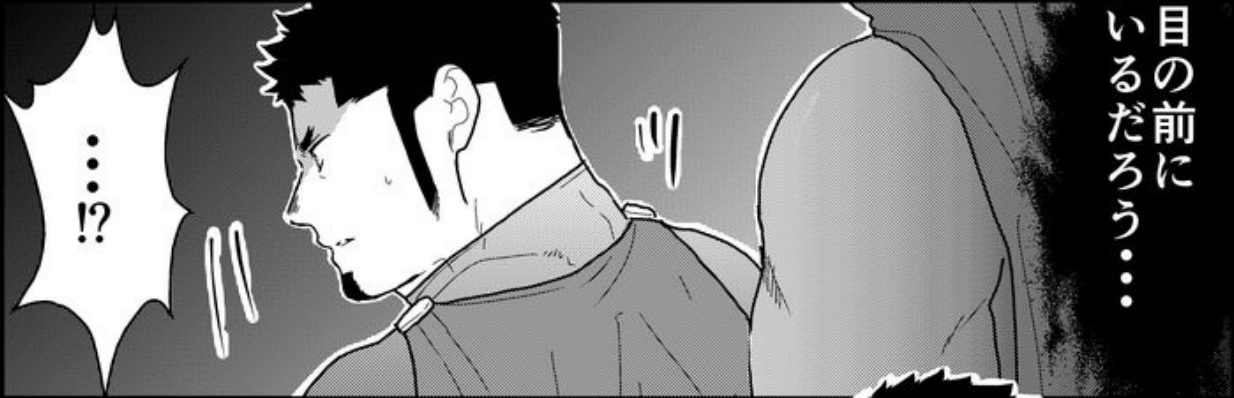
約束通り
一人でだッ











目の前に
いるだろう…



貴様…ッ



…なッ



何故…ッ



...ぐツ

ツ

お前の目で...

よく見るがいい...

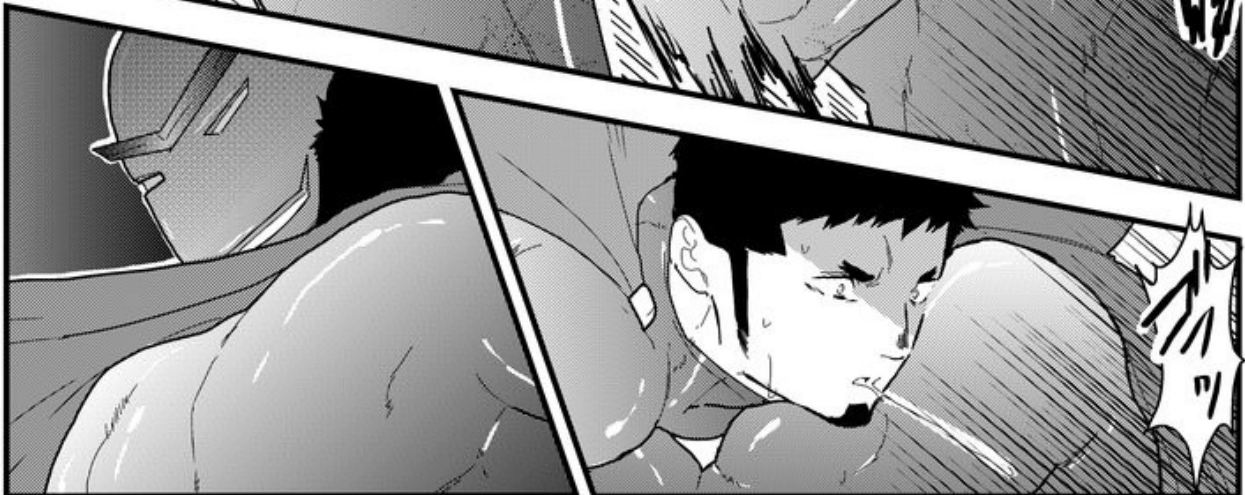
...テメエ...ツ!!!

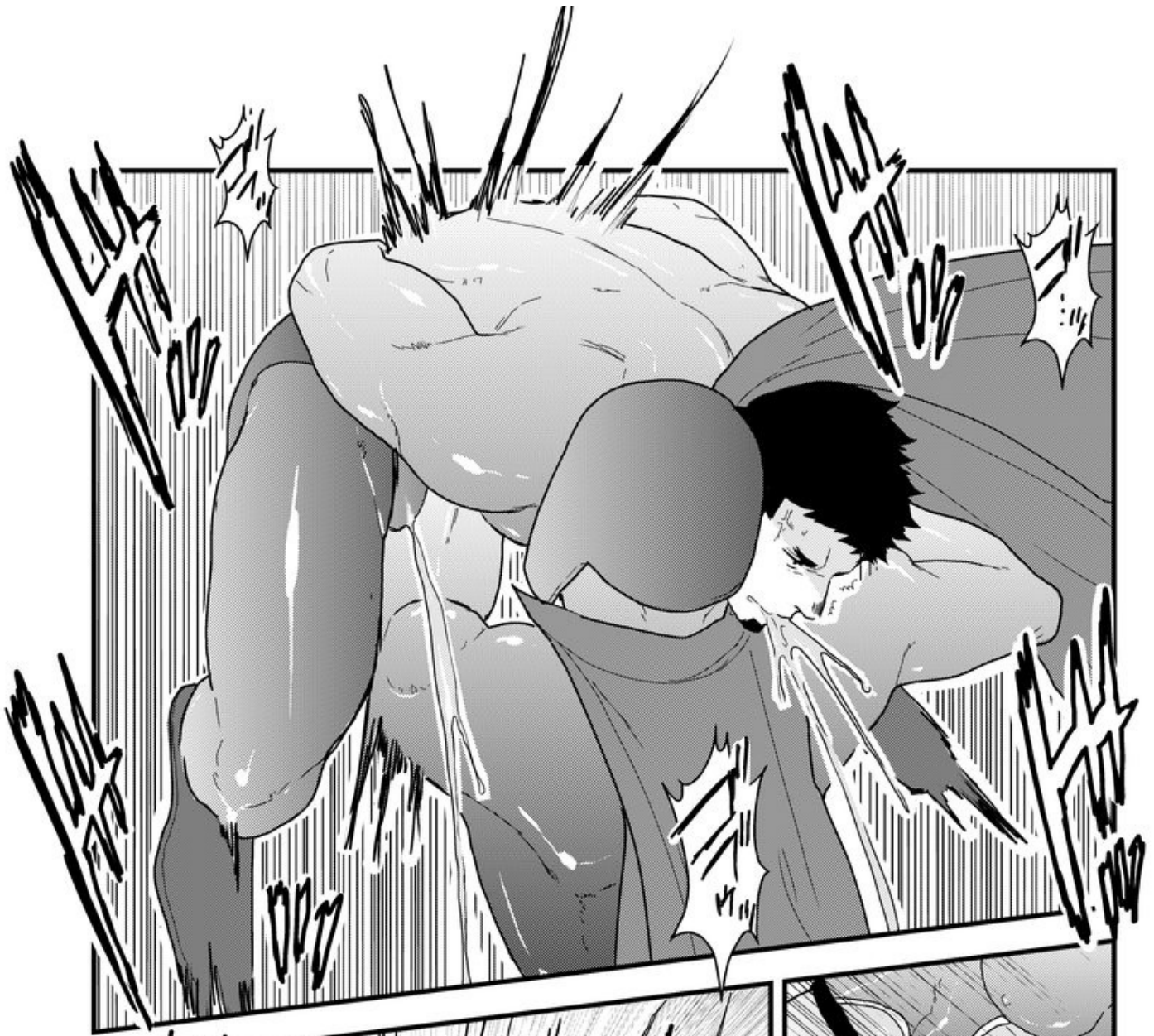
皮肉だな... 敵だと思った相手が 仲間だとは...

うう...

う...ツ

あ...







もう少しで
俺を追い詰められる
所だったが……



……詰めが甘かった
様だな……
レッドバスター……



俺の特性は
エナジードレイン……

ドレインされた
人間は
自我を無くし
俺の思い通りに
操る事が出来る……

お前の司令官も
俺の操り人形に
過ぎない……

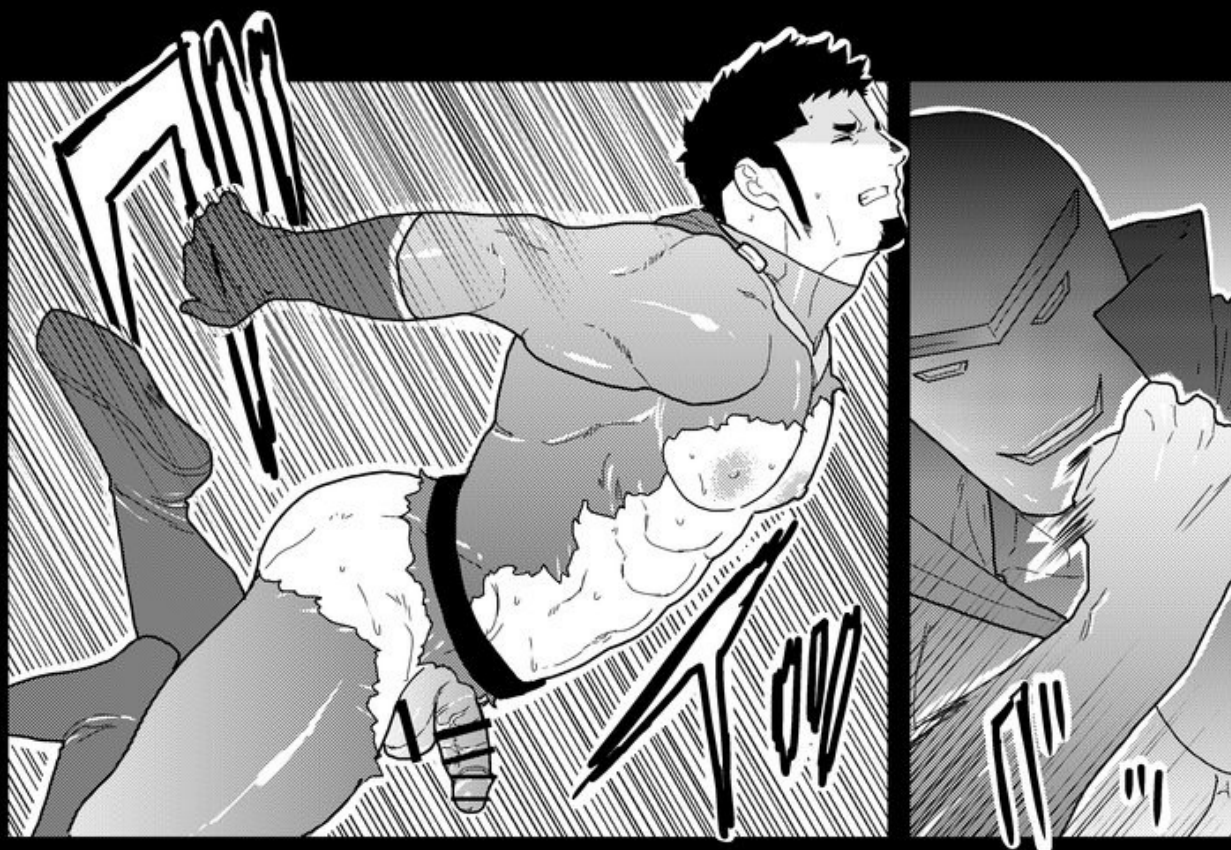


う……ぐ……ッ



次は……

お前の番だ……



レッドバスター……ッ

頼む……ッ

この男を
喜ばせてやれ……

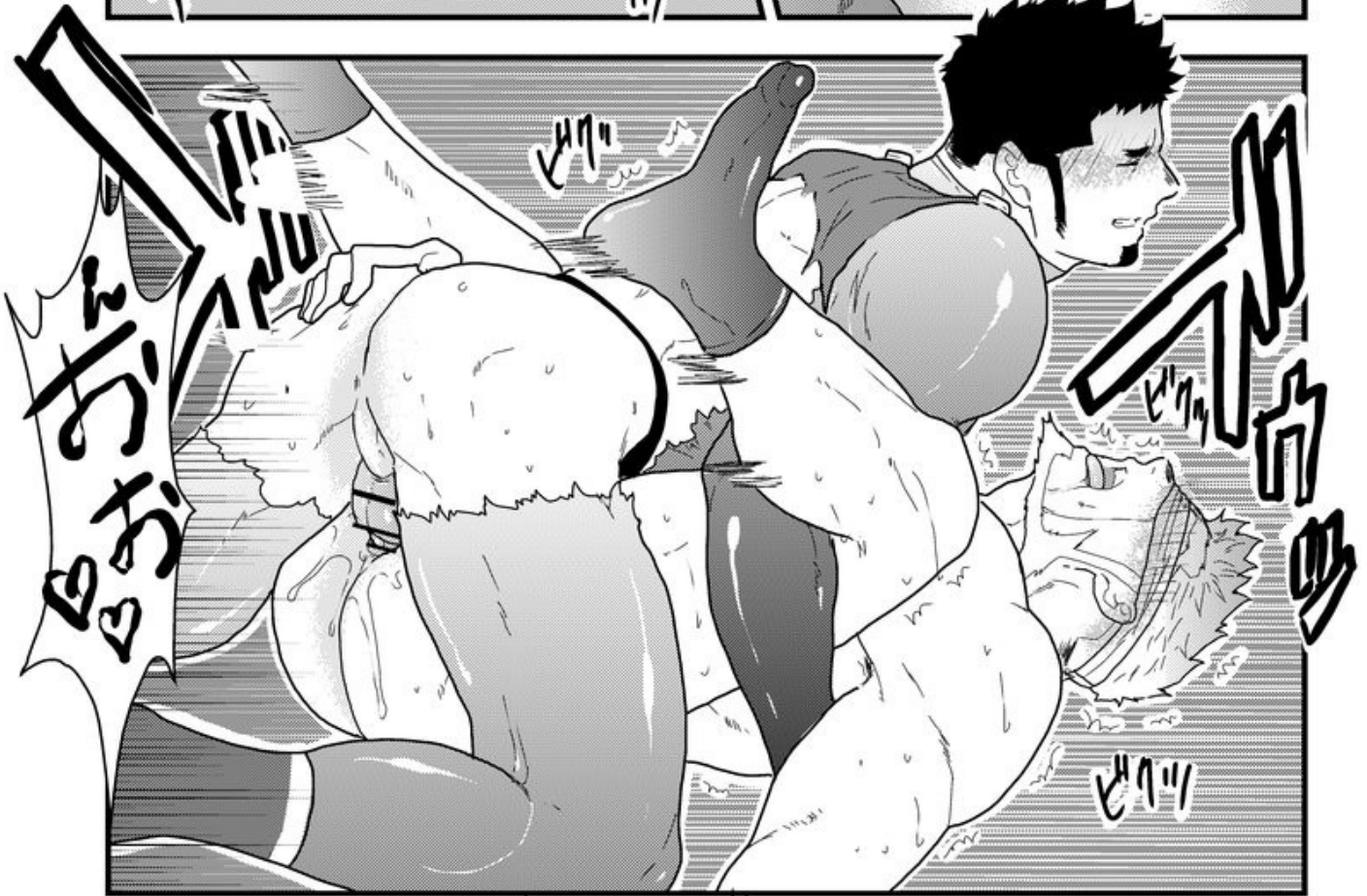
や……
やめろ……ッ

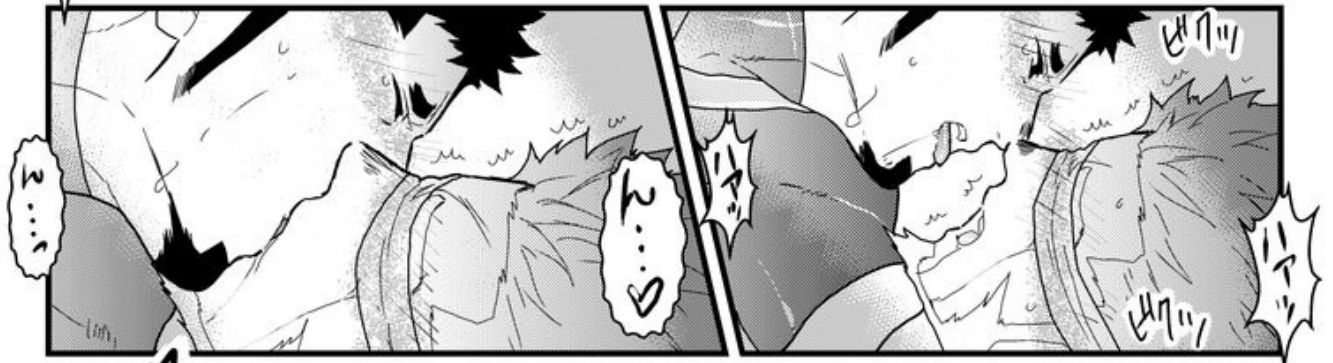
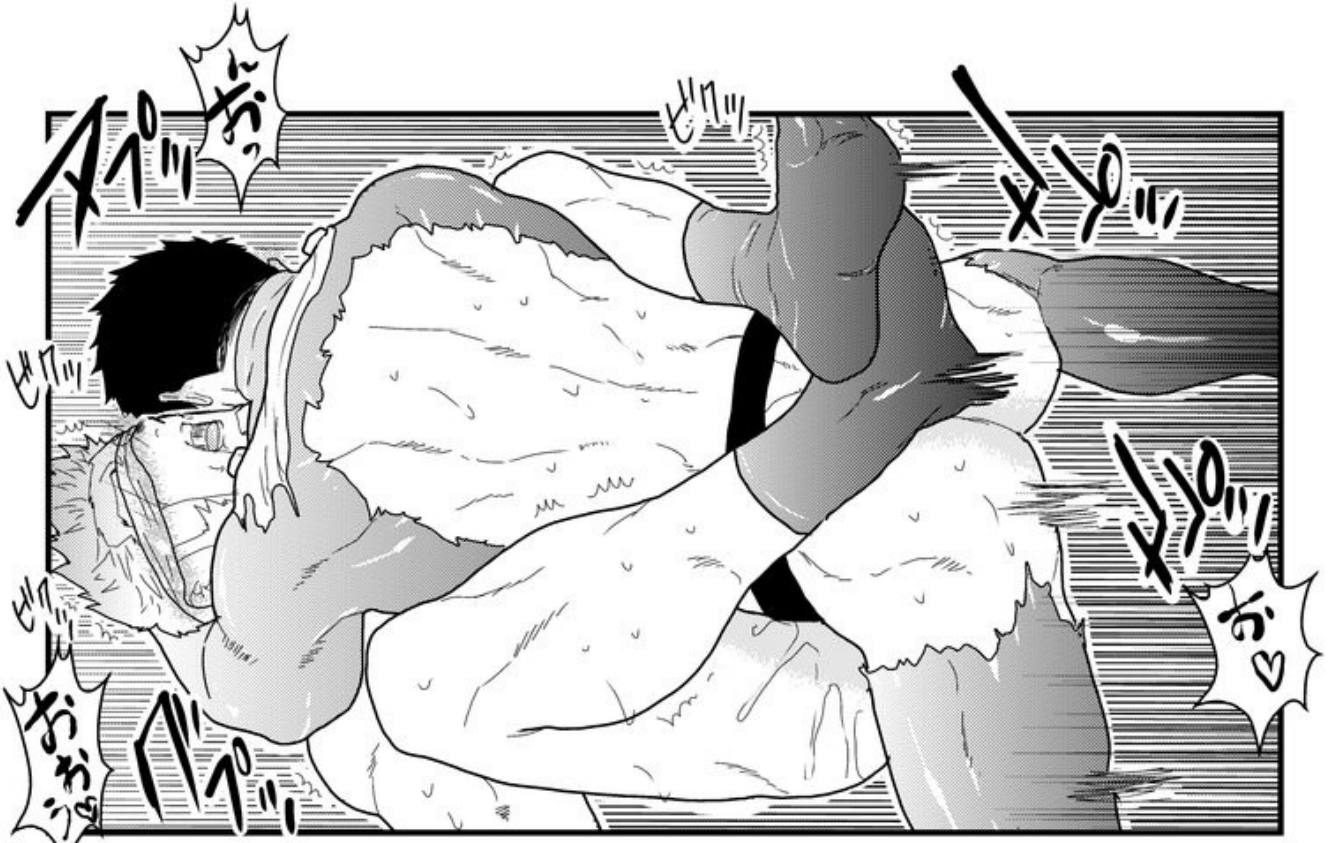
!!!

……さあ……
お前のモノで……

……何で……ッ

な……ッ



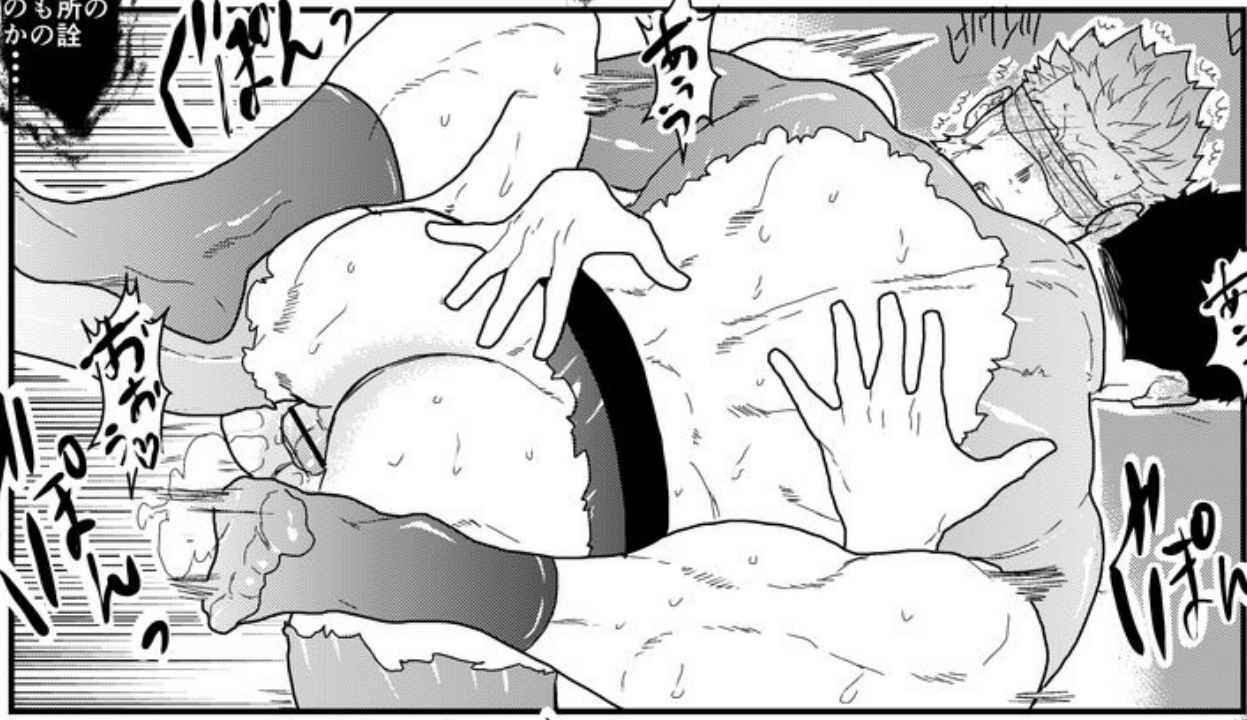




お前達の正義は所詮こんなものだったのか...

操られて
いるとはいえ...

無様な
姿だ...



おん
おん
おん

おん
おん



仲間共々...

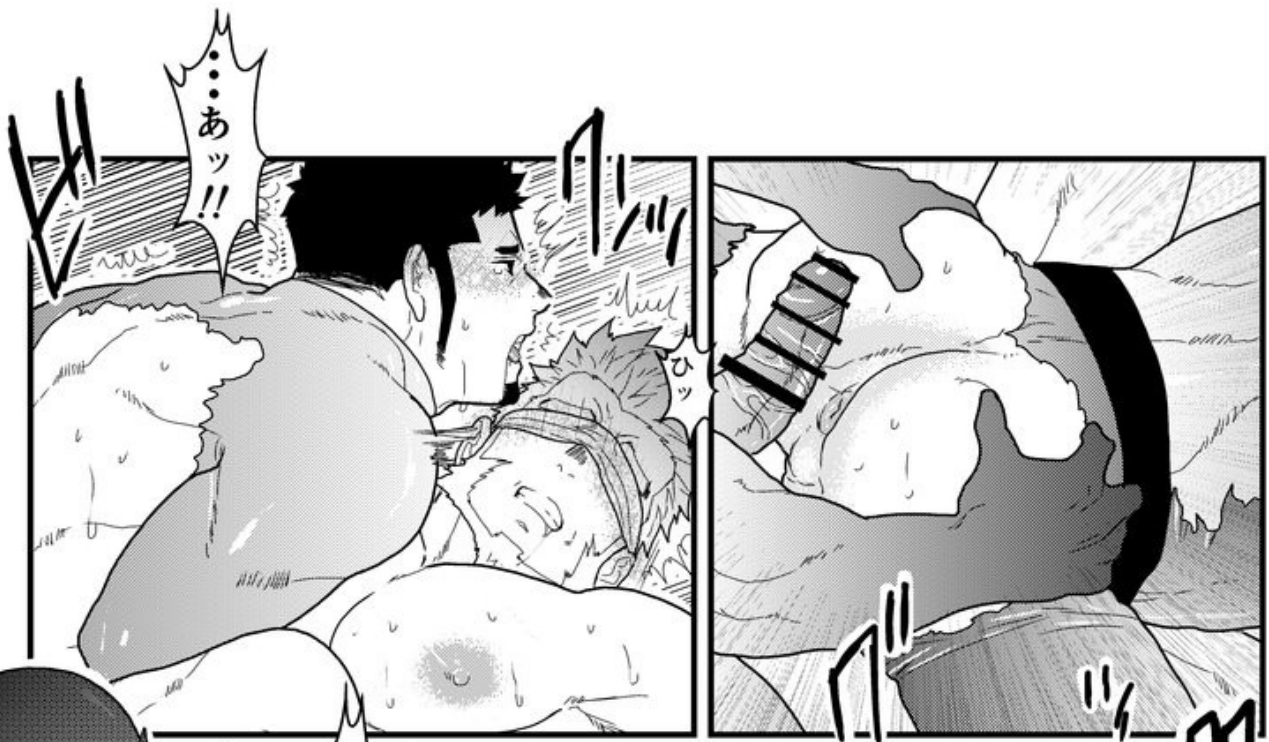
お前の全てを...

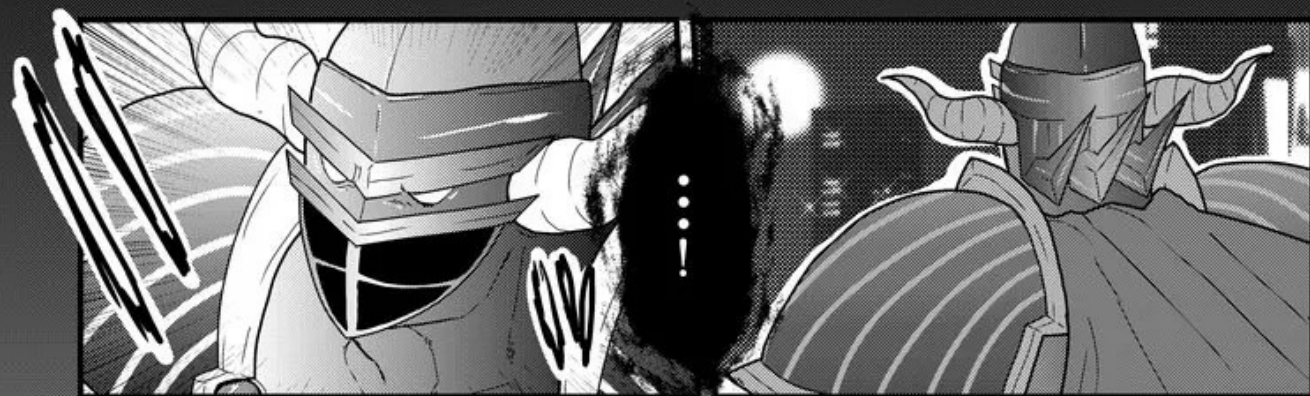
俺の物に
してやる...



そろそろ
終わりに
しよう...

レッドバスター...





吾桑ちゃん…!?



…あれは…



お前達の
エナジーが
俺に入り込んで
来る…ッ

良いぞ…

どうした……?

んおっ♡

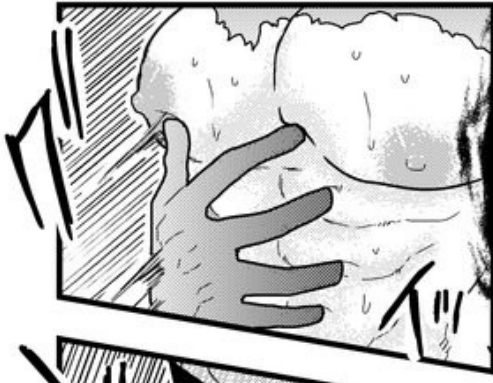
ぬふん♡

お前達の力は
その程度か……ッ

ぬふん♡

んおっ♡

ぬふん♡



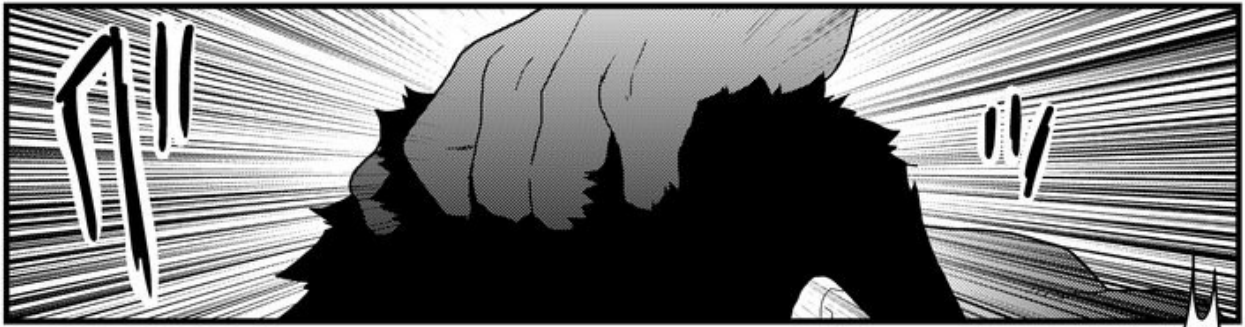
さあ……ッ
始まりの
時間だ……ッ

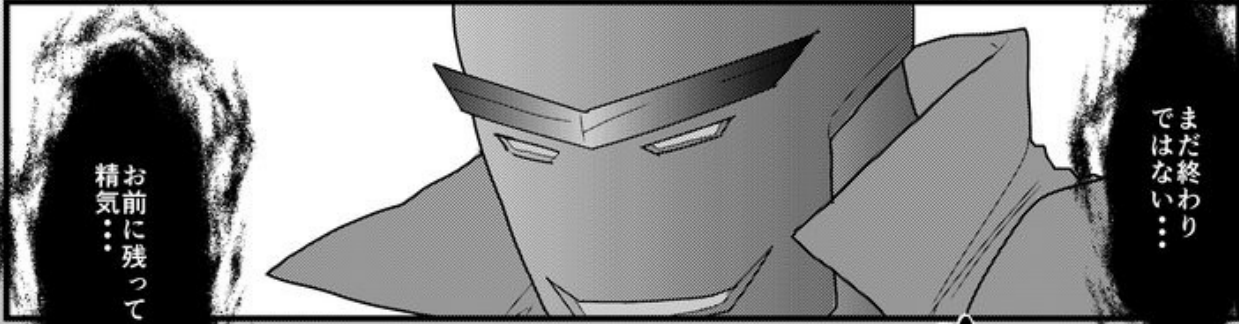


レッドバスター……
お前の全て……ッ

俺の物に……!!!





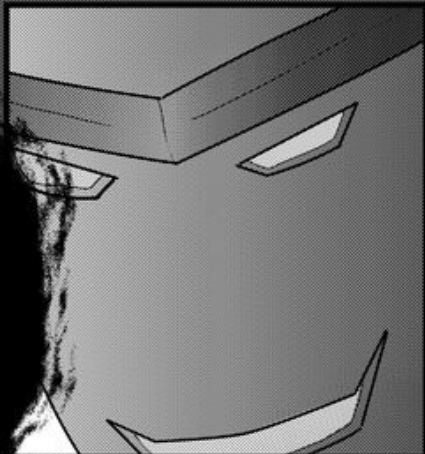


お前に残っている
精気……

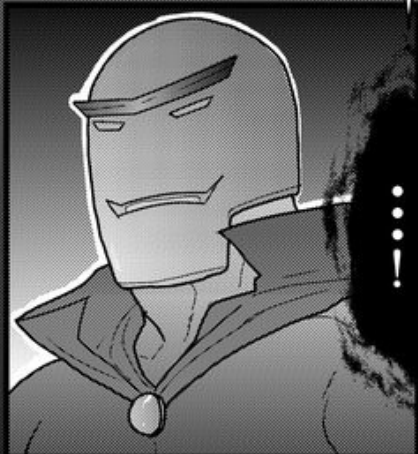
まだ終わり
ではない……



じっくり
絞り出して
やる……



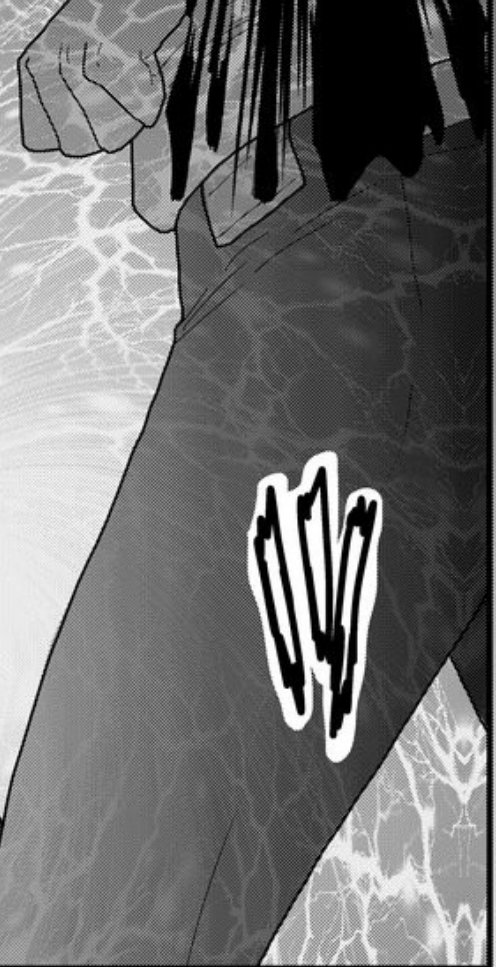
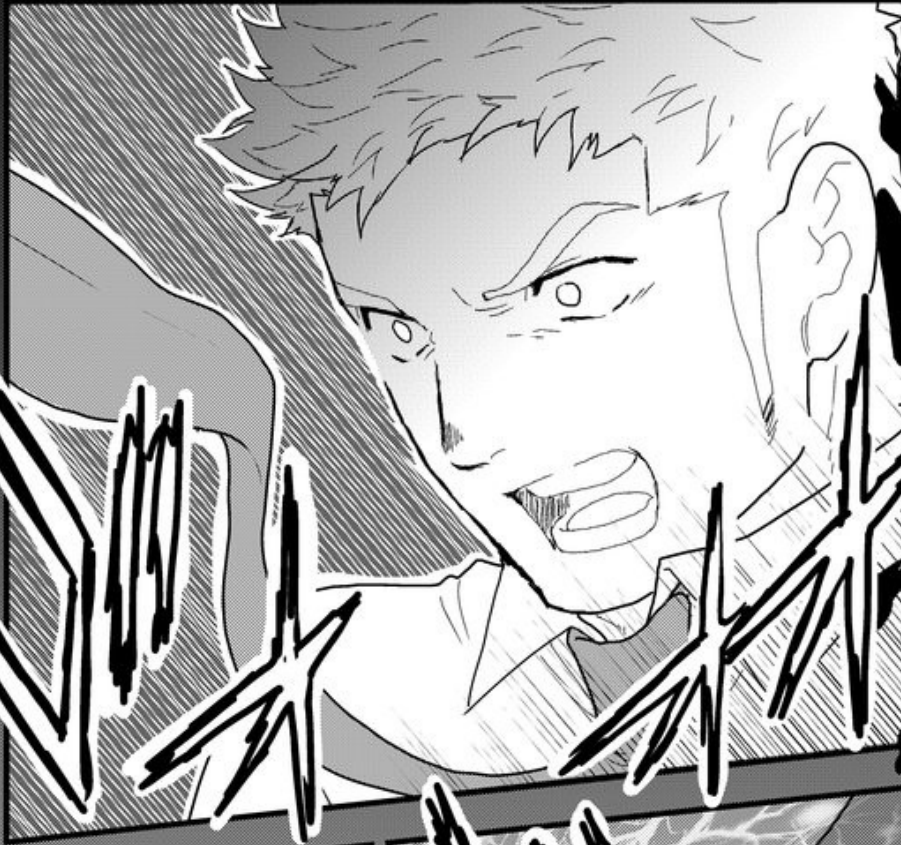
……お前は……



……!



手を出すなアあ
ああアあ!!!



お前は……
一体……？

……殺してやる……

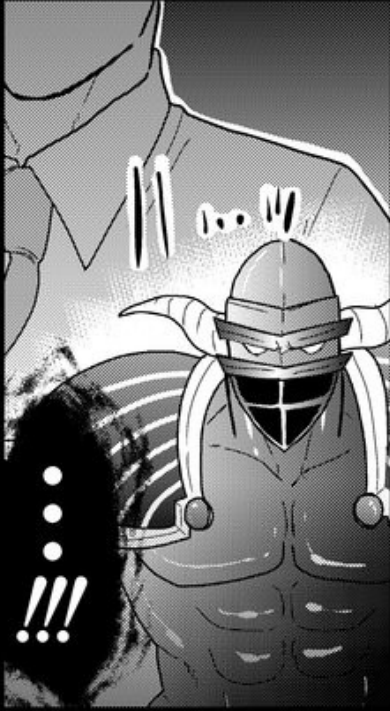
そっか……
そういう事か……

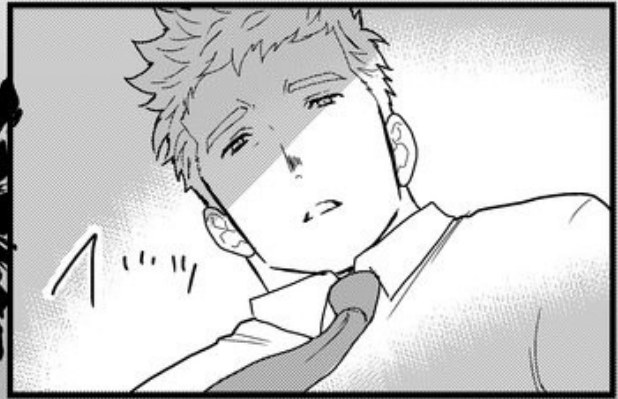
お前も……

俺と同じ……

殺してやる!!!







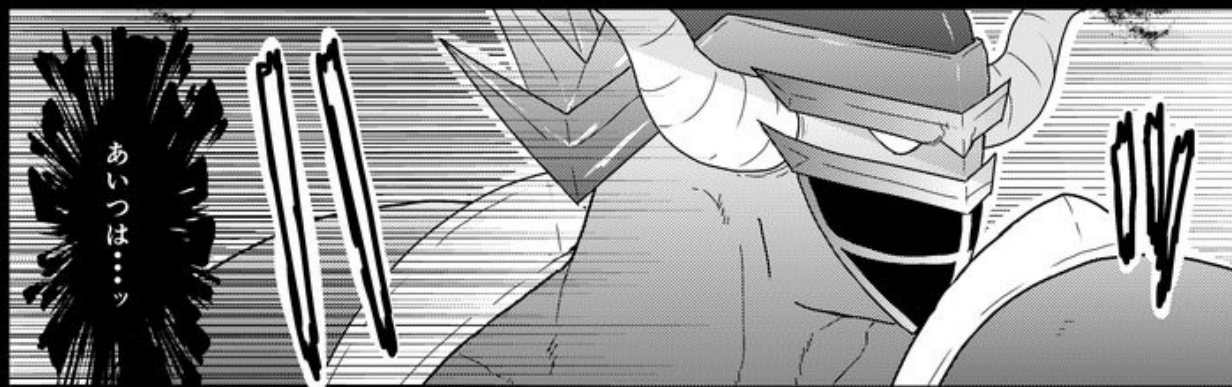


レッツちゃん……ッ



息はある……

大丈夫……



あいつは……ッ

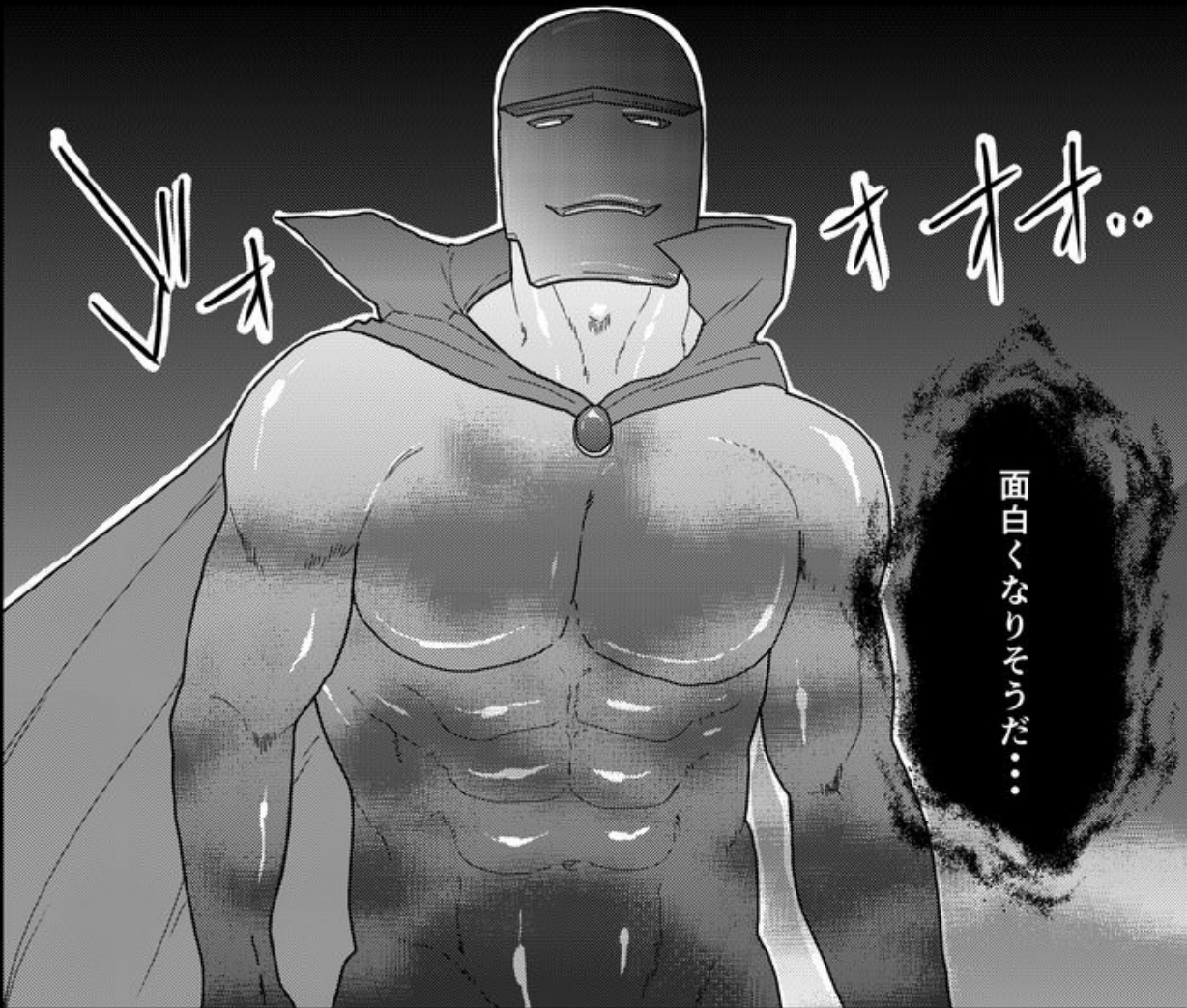


…あいつの
名は吾桑と
言うのか…

そうか…

…吾桑…

良い名を
付けてもらったな…



面白くなりそうだ…